

予 算 決 算 常 任 委 員 会

1. 日 時 平成28年9月16日（金）

午前9時30分 開会 午前11時48分 休憩

午後1時00分 再開 午後2時44分 休憩

午後3時00分 再開 午後4時38分 閉会

平成28年9月28日（水）

午前10時00分 開会 午前10時19分 閉会

2. 場 所 本会議場

3. 出席委員 【予算決算常任委員会】

川崎順次委員長、吉本慎太郎副委員長、南藤陽一委員、宮橋勝栄委員、井田秀喜委員、木下裕介委員、新田寛之委員、吉村範明委員、浅村起嘉委員、梅田利和委員、高野哲郎委員、片山瞬次郎委員、出戸清克委員、二木攻委員、宮西健吉委員、宮川吉男委員、橋本米子委員、表靖二委員、浅野清利委員、北出隆一委員、杉林憲治委員、灰田昌典委員

4. 欠席委員 なし

5. 委員会の議題

議案第67号 平成28年度小松市一般会計補正予算（第2号）

議案第68号 平成28年度小松市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）

議案第69号 平成28年度小松市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）

議案第70号 平成28年度小松市公共下水道事業会計補正予算（第1号）

議案第77号 平成27年度小松市歳入歳出決算の認定について

議案第78号 平成27年度小松市公営企業会計決算の認定について

議案第79号 平成27年度小松市公営企業会計未処分利益剰余金の処分について

6. 委員長報告の要旨

【予算について】

■議案第 67 号 平成 28 年度一般会計補正予算（第 2 号）について

中学校「イングリッシュ・テーブル」開設費については、英語によるコミュニケーション能力の向上は、国際交流にとって重要なことではありますが、一方で国語教育による日本文化の理解にも力を入れて、総合的な力の育成を目指すよう求めました。

児童運営費については、年収 360 万円未満の世帯の第 2 子の保育料を無料化することとあります。小松市においては、合計特殊出生率が、全国及び県平均に比べ、大幅に伸びているという喜ばしい状況ではありますが、この要因をしっかりと分析して、今後の保育・子育て支援施策に繋げるよう求めました。

親水スポーツ公園企画費については、トレーニングルームや展望台等の整備を行うための企画に要する経費とありますが、親水スポーツ公園に関しては、利用する生徒のアクセス道路の安全性も考慮し、整備を行うよう求めました。なお、今回の企画費として、第一地区コミュニティセンター改修企画費も挙げられておりますが、両施設とも地元や関係機関の意見を十分に確認し、施設の長寿命化も含め、市民が誇りと夢を持てるような施設としての企画を求めました。

（仮称）九谷焼創作工房整備費については、石文化の日本遺産認定を機に、企業版ふるさと納税制度を活用し、九谷焼の交流拠点施設の整備を行うものであり、石川県九谷窯元工業協同組合が事業主体となり、今年度は、製土工場部分の建替え整備工事を行うこととあります。本事業は寄付者の申し出により実現したものであり、本市の産業観光、九谷焼振興にとって、重要な事業ととらえているので、事業主体と連携を図ることはもとより、事業の進捗状況を逐次議会へ報告するよう求めました。

公園施設整備費については、さわ池ふれあいパークの北陸新幹線建設工事に伴い支障となる駐車場と調整池の機能回復するための実施設計を行う委託業務についての経費とあります。調整池整備にあたっては、以前にも道路が冠水した箇所であることを十分に考慮し、公園からの排水が影響しない設計となるよう求めました。

■議案第 70 号 平成 28 年度小松市公共下水道事業会計補正予算（第 1 号）について

九竜橋川雨水ポンプ場ポンプ増設工事（機械・電気工事）にかかる国の交付金内示額の減額により、予算及び工事工程を見直したことに伴うものでありますが、周辺住民の不安を一日でも早く解消するためにも、今後も国・県との連携を密にしながら、事業の早期完了に努めていくよう求めました。

【決算について】

■議案第 77 号 小松市歳入歳出決算の認定について

地域で守る長寿防火推進費については、一人暮らし高齢者宅とその避難補助者宅に連動型住宅用火災警報器を設置する経費の一部を助成するものでありますが、小松市内で実際に発生した火災においても被害を最小限に抑えるなど、その有効性が報告されているもの

であり、今後も民生委員や町内会長との連携のもと、積極的な普及に努めていくよう求めました。

Wi-Fiスポット整備費については、一部のスポットにおいて、電波が不安定であるとの声が聞こえているため、今後は定期点検をより強化し、電波環境の改善に努めていくよう求めました。また、犯罪等に利用されないことがないよう、セキュリティー対策に万全を期していくよう求めました。

広報・広告・宣伝費については、広報こまつについて、広報効果の向上や今後の広報のあり方を考えていくためにも、広報リポーターからの紙面づくりについての意見聴取のみならず、市民の閲読状況に関する調査を実施するよう求めました。

防災体制強化費については、避難所に配備されている発電機や投光器などの備品について、定期的に地域行事や防災訓練に活用するなど、いつでも使用できる状態を維持していくための方策についても考えていくよう求めました。

■働く世代への大腸がん検診推進費及びがん対策費について、中小企業においては、十分な検診が実施できていない状況も考えられるため、関係機関と連携し、検診を受けやすい環境整備等を進め、若者の検診受診率が低いこと、その向上対策に努めるよう求めました。

小松市民病院関係費については、看護師のキャリアアップを後押しするため、認定看護師の育成を引き続き支援し、1分1秒の戦いである救急医療に対応するため、医師の確保、住環境の整備を今後も推進するよう求めました。

認定こども園等サポート費について、保育士等が不足する中、代替職員だいたいの確保に苦慮するところとは思いますが、先を見据え、計画的な資格取得を促すよう求めました。

はたらく障がい者支援費については、市においては関係機関と協力連携し市内企業に対し積極的な働きかけを行い、障がい者の就職に向け一層努力するとともに、企業に対してはしっかりとフォローアップしていくよう求めました。

自立支援給付費国庫返納金については、県の監査により発覚した障害福祉サービス事業所に対する給付費の返還とのことでありますが、今後、同様の事案が発生しないよう、市においても指導を行い、適正給付に努めるよう求めました。

市民協働推進費及びやさしいまちづくり推進費について、各種会議においてまとめられる提言等について、進捗状況を含め、早い段階で議会に報告するよう求めました。

未来の教育検討費については、小松市の将来の教育の在り方を考えるうえで更なる強化を期待するものであり、人事面も充実させて、配当された予算を有効活用するよう求めました。

スクールアメニティ推進費については、危険性、緊急性の高いものを優先的に実施しているとのことでありますが、小中学校は教育の根幹となるものであり、より快適な教育環境を提供するためにも、各学校と十分な協議を重ねて、長期的な視点にたった計画の中で予算の確保と適切な執行を求めました。

学校体育費及びスポーツ振興費について、ジュニア選手の育成には、学校の役割が大きいことは言うまでもありませんが、部活動への外部講師の派遣による教職員の負担軽減や全国大会出場時の支援等の充実について、教育委員会とスポーツ育成課がしっかりと連携

して取り組むよう求めました。

サイエンスヒルズこまつ費について、平成 27 年度決算は市の一般財源による持ち出しは 4 千 4 百万円余との結果でありました。平成 26 年度決算に比べて専門分野の委託費などで 2 千 8 百万円余の経費縮減に努めたとのことで、その持ち出し額は削減されております。しかし、4 千 4 百十万円が特定防衛施設周辺整備交付金、いわゆる防衛 9 条交付金を原資として一般財源とは別に繰り入れられており、実際の市の持ち出し額は、8 千 8 百万円余であり、当初、都市創造部において示されたビジネスプランにおける市の持ち出し限度額 7 千 2 百万円を超えているのは事実であります。この 7 千 2 百万円については、教育的投資として捉えるものであります。平成 27 年より 5 年間で合計 2 億 4 千万円にもものぼる防衛 9 条交付金を主な原資として積み立てる科学教育振興奨励基金については、経常的な歳出の補てんに充てるのは本来の在り方ではなく、理科教育の質の充実や館の魅力アップに使用すべきであり、ビジネスプランを刷新して、館の収入増を図って収支改善に努めるよう求めました。

教育の質の向上において、市が担う役割は大きく、教材や教育環境、人的配置において総合的かつ長期的な視点にたって予算を配分し、更なる充実を期待するものであります。

多文化共生推進費については、近年、外国人住民が増加傾向にあり、国際交流協会の役割も増えることが予測されるため、継続した支援を行うよう求めました。また、地域住民と外国人との交流等、より地域に密着した国際交流の機会創出も必要であるとの意見が出されました。

山林所有者調査費については、不在地主が増加し、森林が荒れることがないように所有者や管理者への支援を求めました。

有害鳥獣駆除対策費については、近年、クマやイノシシの出没情報が多発しており、今後、ニホンシカが出没する懸念もあることから、先進地を参考にしながら、必要な対策を講じるよう求めました。

レンタサイクル運営費については、今後、観光客のニーズに合わせた、魅力的なルート設定を求めました。

町内道路改良舗装費補助金については、町内が実施する町内道路整備に対して一部補助をするものとのことであります。町内からの要望に対しては、最大限、応えられるよう配慮を求めました。

なお、分科会委員長報告に対する質疑、討論はなく、採決の結果、議案第 67 号から議案第 70 号まで、議案第 78 号及び議案第 79 号の以上 6 件は全会一致をもって、議案第 77 号は賛成多数をもって、いずれも原案どおり可決・認定すべきものと決し、法定報告を了承することとした次第であります。

最後に、次年度の予算に向けては、これらの各分科会の様々な意見を踏まえ、P D C A サイクルを十分に働かせるためにも、事業の検証を十分に行い、しっかりと精査し、次年度の予算編成に反映するよう強く求めるものであります。